

特集

7月29日より日劇3ほか全国東宝系にて公開
監督:宮崎吾朗

ゲド戦記

TALES from EARTHSEA

音楽から『ゲド戦記』の魅力に迫る

ファンタジー文学の傑作『ゲド戦記』が、ジブリの手によってついに映画化、間もなく公開されます。

この作品は、『風の谷のナウシカ』から始まる宮崎駿作品に多大な影響を与えてきました。

5月号「スタジオジブリ」特集でもご紹介しましたが、今回は音楽を担当した谷山浩子、寺嶋民哉、そして主題歌を歌う手島 葵にスポットを当ててご紹介しましょう。

またスコアは、18ページから「時の歌」を、20ページからは、サウンドトラックより「旅路～大地の人～命の火 メドレー」をお届けします。

物語

Story

舞台は、多島海世界“アースシー”。
西海域に棲む竜が、突如、人間の住む世界である東海域に現れた。しかも2匹の竜が共食いをしながら…

それに呼応するかのように、世界ではさまざまなことが起こり始めた。世界の均等が崩れ、人々の頭が変になっていく…

ハイタカ（真の名はゲド）は、災いをもたらす源を探す旅に出る。彼は世界でもっとも偉大な魔法使い「大賢人」と呼ばれていた。旅の途中で、エンラッドの王子アレンと出会う。少年は正体不明の“影”に追われ、国を捨てたのだ。災いの力は、アレンの身にもおよんでいたのだ。

ハイタカとアレンは、人々が崩れかけた遺跡に集くように

暮らす都城、ホート・タウンにたどり着くが、職人は技を忘れ、売られているのはまがい物ばかり。人々はせわしなく動き回ってはいるが、みな目的を失っているかのように見えた。

街をさまよっていたアレンは、顔に火傷の痕が残る少女テルーを人買いの手から救い出す。親に捨てられたテルーは、ハイタカの旧知の女性テナーとともに暮らし、彼女にしか心を開かない。心に闇を持ち、自暴自棄になるアレンを嫌う。

ハイタカは、クモという魔法使いが生死両界の扉を開き、それによって世界の均等が崩れつつあることを探ります。かつてハイタカと戦って破れたクモは、ハイタカに復讐を誓っていたのだ…